

## 第1回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

◇日時 2022年5月19日(木) 19時～20時30分

◇方法 Zoomによるオンライン方式

◇参加者 18名

◇実践報告 山形市立第三小学校教諭 岡崎亮先生

小学校6年道徳「思いをつないでいくために(余生をささげた命のしぼぎくら) 自作教材

### 【実践概要】

#### ○授業のねらい

(道徳として)

- ・人間理解…大切であっても、実現したり継続したりすることは難しいという人間の弱さを理解する。
- ・多面的・多角的に考える…社会に奉仕することの大切さやそれを継続していくことの難しさに対して  
思いや課題をもち、自己や社会の未来に夢や希望をもつ。
- ・道徳的实践意欲と態度…集団の一員として公共のために役に立とうとする態度を養う。

(ESDとして)

- ・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

連携性: 田所さん, 松田さん, そして自分達の思いはつながることができる。

責任性: この活動を続けていくためには, 自分たちの行動が大切である。

- ・本学習で育てたいESDの資質・能力

コミュニケーション力: 様々な立場の意見を聞いたり, 家族や友達に発信したりしていく。

共感的問題解決力: 継続するために自分達も関わっていく

- ・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正: 思いをつないで行動にうつしていくことは大切だ。

- ・達成が期待されるSDGs

11 住み続けられるまちづくり

#### ○展開の概要



立谷川沿い一面に咲く芝桜



15年前には草が生い茂り多くのごみが捨てられていた同じ場所

比較 → 「だれがきれいにしたのだろうか？」

田所さんというおじいさんがたった一人でやった！

草を刈り、木を伐採し、石を掘り起こして、土を耕し、一つ一つ芝桜を植えた（すべて自腹で）

→ 「何のためにきれいにしたのだろうか？」

田所さんの言葉

「きれいな環境にすればごみは捨てられない」

「きれいな川で孫を遊ばせたい」

田所さんはガンで余命数か月と言われたが、この作業を生きがいと感じ、7年後亡くなる

そのあとを引く継ぐことになったのが、義理の息子の松田さん

→ 「あなたが松田さんだったら、あとを引き継ぐか？」話し合い

**引き継ぐ**（多数）

**引き継がない**（少数）

命を使うほど大事

ずっとはできない

協力してくれる人がいる

めんどくさい 休みたい



子どもの話し合いの様子を松田さんに見てもらって、  
そのあとに松田さんに登場してもらった

（そのときの子どもの振り返り）

- ・こんな生き方をする田所さん、松田さんはすごくカッコいい
- ・大変なことには楽しいことがあるというのは自分も体験したことがある
- ・ぼくたちができることはポイ捨てをしないこと 今学習している SDGs とつながっている

「田所さんや松田さんの思いをつないでいくために、自分たちも何かできないだろうか？」

- ・自分もボランティアに参加する
- ・来年も家族といっしょに芝桜を見に行く
- ・この学習のことをみんなに伝える

「自分は誰かの思いをつないで、人の役に立つことが何かできるか？できないか？」

- ・バスケットで先輩の思いをつないでいく 大きな試合に行けなくても努力はできる
- ・管理栄養士になるのが夢だが、なりたくてもなれなかった人の思いをつないでいけると思う

### ○実践を振り返って

・単純に思いをつなぐことが大切だという価値を理解するだけでなく、それを継続していくことの難しさに対しても考えを深め、より深い道徳の学びをすることができた。GT として松田さんに毎時間授業に参加してもらったことが大きいと考えられる。

・教科書教材でなく、実際に取り組んでいる松田さんに自分たちの考えを話す、そして松田さんの話を聞く。そういった話し合い活動が続けたことで、児童にとってより深い道徳の学びにつながったと考えられる。

・「田所さん、松田さん、そして自分達の思いはつながることができる」という連携性の視点や「この活動を続けていくためには、自分たちの行動が大切である」という責任性の視点で、児童の ESD の見方・考え方を鍛えることができたのではないかと思う。

・ESD の単元としては学習後に何かしらの行動変容を求めたいが、3 時間単元の道徳の授業の中では、

価値観の変容は見られたが行動の変容までは見るができなかった。

・「私の夢は管理栄養士なんですけど・・・。」という振り返りがあるように、児童はこの実践を通して自分の生き方や将来の夢についての考えを深めている姿が見られた。そこで、この実践の後に、修学旅行で「訪れる場所で働く人の思いについて考え自分達のこれからの将来に生かそう」というねらいを設定し、児童の行動変容を目指した。

・卒業間際に、もらった芝桜を家でどうしているかを児童に聞いてみた。33人中29人の児童が「大事に育てている」「花が咲くのが楽しみ」など、大切に育てている児童が多いことがわかった。中には「田所さんから松田さんにつないでいったように、芝桜の命が続くように大切に育てていきたいと思います。」と、芝桜を大切に育てることの意味を、「思いをつなぐために自分ができること」として捉え、行動にうつしている児童の姿も見られた

#### 【グループ討議を経た意見交流】

- ・ ESD はこれまでの教科学習にプラスアルファするものではなく、新たな学びを生み出すもの
- ・ ゲストティーチャーを発掘するには、行動力が大事！
- ・ ESD は「つなぐ」ということが核となることを改めて強く感じた
- ・ 地域教材の発掘は大変だが、子どもの学びを大きく深めるチャンス！
- ・ それぞれの地域には、田所さんや松田さんのように取り上げたい人物はきっといるはず

そのためには教師自身の気づきが大切

- ・ 地域の人とともに学ぶことは、子どもも地域の人もみんな元気になる

- ・ 行動化は、そんな急に見えてくるものではない

何年かたって変わっていたらいい

ESD の学習で考えた場合、短期的に見るものと長期的に見るものに分けて考えた方がいい

この実践なら、松田さんからもらった芝桜の苗を「思いを受け止めて」大切に育てている姿は短期的な行動変容ではないか

先生自身が実践前にどのような行動変容を想定したのか　そこは少し甘かったのでは？

子ども自身が「変わった」とメタ認知できるような仕掛けも必要ではないか

「人は変わる」という気づきは大切